



パーティションの設定

- [パーティションの概要 \(1 ページ\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの概要 \(1 ページ\)](#)
- [サービス クラス \(2 ページ\)](#)
- [パーティションの設定タスク フロー \(3 ページ\)](#)
- [パーティションの連携動作と制約事項 \(6 ページ\)](#)

パーティションの概要

パーティションは、次のいずれかで構成される論理グループです。

- ルート パターン
- ディレクトリ番号 (DN)
- トランスレーション パターン
- トランスフォーメーション パターン
- Universal Resource Indicator (URI)
- ハント パイロット

パーティションを使用して、類似するアクセシビリティ要件、組織、ロケーション、およびコールタイプに基づいてルートプランを論理サブセットに分割することで、コールルーティングが容易になります。

コーリング サーチ スペースの概要

コーリングサーチスペース (CSS) は、優先順位付けされたパーティションリストです。コーリングサーチスペースによって、発信者がコールに使用できるコール宛先が決定されます。コール宛先は、発信者のコーリングサーチスペースで使用可能なパーティションに存在する必要があります。そうでない場合、発信者はその宛先にはコールできません。コーリングサー

チスペースは、ディレクトリ番号に割り当てることや、電話およびゲートウェイなどのデバイスに割り当てることができます。

1つのコーリングサーチスペースが発信者の電話機と発信者のディレクトリ番号の両方に割り当てられた場合、システムはその2つを連結してその発信者のCSSを提供します。

パーティションとコーリングサーチスペースを使用することで、コール権限に従ってシステムを整理できます。たとえば、次のことが可能です。

- 一部の従業員について市外通話の発信を制限する
- ロビーにある電話からCEOへの直接コールを制限する

サービスクラス

パーティションとコーリングサーチスペース（CSS）を使用してサービスクラスを設定できます。次の表に、PSTNアクセスを提供するサービスクラス用に作成できるパーティションとコーリングサーチスペースの例を示します。

- 緊急コール
- ローカルコール
- ナショナルコール
- 国際ダイヤリング

表 1: パーティションとコーリングサーチスペースの例

コーリングサーチスペース	ルートパーティション1	ルートパーティション2	ルートパーティション3	機能
Base_CSS	Base_PT	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergency) • On-net
LocalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	—	—	<ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergency) • On-net • [ローカル (Local)]

コーリングサーチ スペース	ルートパーティ ション1	ルートパーティ ション2	ルートパーティ ション3	機能
NationalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	PSTN_National_PT	—	<ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergency) • On-net • [ローカル (Local)] • 国内 (National)
InternationalPSTN_CSS	PSTN_Local_PT	PSTN_National_PT	PSTN_Intl_PT	<ul style="list-style-type: none"> • 緊急 (Emergency) • On-net • [ローカル (Local)] • 国内 (National) • 国際 (International)

デバイスは自動的に、Base_CSSなどのコーリングサーチスペースに登録されます。これにより、すべてのデバイスでオフネット番号と緊急オンネット番号の両方にダイヤルできるようになります。ローカル7桁またはローカル10桁、国内、および国際ダイヤリング機能を提供するには、ユーザデバイスプロファイルで残りのコーリングサーチスペースを電話番号に割り当てる必要があります。

パーティションの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	パーティションの設定 (4 ページ)	パーティションを設定して、到達可能性の特徴が類似したシステム リソースの論理グループを作成します。
ステップ2	コーリングサーチスペースの設定 (5 ページ)	コールを完了しようとする発信側デバイスが検索するパーティションを設定します。

パーティションの設定

パーティションを設定して、類似した到達可能性の特徴を持つシステムリソースの論理グループを作成します。次のいずれに対してもパーティションを作成できます。

- ルートパターン
- ディレクトリ番号 (DN)
- トランスレーションパターン
- トランスフォーメーションパターン
- Universal Resource Indicator (URI)
- ハントパイロット

パーティションを作成することで、ルートプランが組織、場所、コールタイプに基づいた論理サブセットに分割されることになり、コールルーティングが容易になります。複数のパーティションを設定できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、次のように選択します。で [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [パーティション (Partition)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいパーティションを作成します。
- ステップ 3** [パーティション名、説明 (Partition Name, Description)] フィールドに、ルートプランに固有のパーティション名を入力します。
パーティション名には、英数字とスペースの他にハイフン (-) とアンダースコア (_) を使用できます。パーティション名に関するガイドラインについては、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** パーティション名の後にカンマ (,) を入力し、パーティションの説明を同じ行に入力します。
説明には、任意の言語で最大 50 文字を使用できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>)、角括弧 ([]) は使用できません。
説明を入力しなかった場合は、Cisco Unified Communications Manager が、このフィールドに自動的にパーティション名を入力します。
- ステップ 5** 複数のパーティションを作成するには、各パーティションエントリごとに 1 行を使います。
- ステップ 6** [スケジュール (Time Schedule)] ドロップダウンリストから、このパーティションに関連付けるスケジュールを選択します。
スケジュールでは、パーティションが着信コールの受信に利用可能となる時間を指定します。
[なし (None)] を選択した場合は、パーティションが常にアクティブになります。
- ステップ 7** 次のオプション ボタンのいずれかを選択して、[タイムゾーン (Time Zone)] を設定します。

- [発信側デバイス (Originating Device)] : このオプション ボタンを選択すると、発信側デバイスのタイムゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、パーティションが着信コールの受信に使用できるかどうか判断されます。
- [特定のタイム ゾーン (Specific Time Zone)] : このオプション ボタンを選択した後、ドロップダウン リストからタイム ゾーンを選択します。選択されたタイム ゾーンと [スケジュール (Time Schedule)] が比較され、着信コールの受信にパーティションが使用できるかどうか判断されます。

ステップ 8 [保存 (Save)] をクリックします。

パーティション名のガイドライン

コーリング サーチ スペースのパーティションのリストは最大 1024 文字に制限されています。つまり、CSS内のパーティションの最大数は、パーティション名の長さによって異なります。次の表を使用して、パーティション名が固定長である場合のコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数を決定します。

表 2: パーティション名のガイドライン

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	340
3 文字	256
4 文字	204
5 文字	172
...	...
10 文字	92
15 文字	64

コーリング サーチ スペースの設定

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられるルートパーティションの番号付きリストです。コーリング サーチ スペースでは、発信側デバイスが電話を終了しようとする際に検索できるパーティションが決定されます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、次のように選択します。で、 [コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] を選択します。

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ3 [名前 (Name)] フィールドに、名前を入力します。

各コーリングサーチスペース名がシステムに固有の名前であることを確認します。この名前には、最長50文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。

ステップ4 [説明 (Description)] フィールドに、説明を入力します

説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。

ステップ5 [使用可能なパーティション (Available Partitions)] ドロップダウンリストから、次の手順のいずれかを実施します。

- パーティションが1つの場合は、そのパーティションを選択します。
- パーティションが複数ある場合は、コントロール (Ctrl) キーを押したまま、適切なパーティションを選択します。

ステップ6 ボックス間にある下矢印を選択し、[選択されたパーティション (Selected Partitions)] フィールドにパーティションを移動させます。

ステップ7 (任意) [選択されたパーティション (Selected Partitions)] ボックスの右側にある矢印キーを使用して、選択したパーティションの優先順位を変更します。

ステップ8 [保存 (Save)] をクリックします。

パーティションの連携動作と制約事項

表 3: パーティションの制限事項

機能またはアクション	制限事項
パーティションの削除	<p>パーティションを削除する前に、次のいずれかのタスクを完了してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コーリングサーチスペース、デバイス、または削除するパーティションを使用しているその他の項目に異なるパーティションを割り当てる。 • コーリングサーチスペース、デバイス、または削除するパーティションを使用しているその他の項目を削除する。 <p>削除されたパーティションは取得できなくなるため、正しいパーティションを削除していることを慎重に確認してください。誤ってパーティションを削除した場合は、それを再構築する必要があります。</p>

機能またはアクション	制限事項
トランスレーションパターン	トランスレーションパターンにはディジット操作が含まれており、パーティションに割り当てられます。コールがトランスレーションパターンと一致する場合、Unified CM が変換を実行し、そのトランスレーションパターンで指定されるコーリングサーチスペースを使用してコールを再ルーティングします。トランスレーションパターンの詳細については、「コールルーティングの設定」の章を参照してください。
時間帯ルーティング	パーティションが着信コールを受け入れ可能なスケジュールを設定します。ルーティングの時間設定の詳細については、「コールルーティングの設定」の章を参照してください。
論理パーティション分割	任意： ゲートウェイおよびトランクアクセスを使用して内部 VoIP ネットワークを外部ネットワークから分割できます。ほとんどの導入環境では論理パーティションの使用は任意ですが、インドのように、内部ネットワークから外部へのコールをすべてローカル PSTN ゲートウェイに接続することが規制により必須となっている国では必須です。論理パーティショニングの設定の詳細については、『Cisco Unified Communication Manager 機能設定ガイド』の「論理パーティション分割の設定」のセクションを参照してください。

